

## 植物学者への第一歩



理学部 1 年  
中土井 洋平太  
マレーシア  
2016 年 9 月 5 日～  
2016 年 9 月 29 日

### 渡航概要と内容

最初の一週間ほどはサバ州の中では比較的人が多いコタ・キナバルで過ごした。そこでは現地の食文化に触れたり、現地の人と交流したりした。次にキナバル自然公園周辺に移動し、ラフレシアを探すことにした。初めの2日間は徒歩で搜索していたが、山道には歩道がなく、猛スピードで車が走ってくることから徒歩での搜索は困難だと考え、コタ・キナバルで仲良くなったタクシードライバーの友人 Jas に車を運転してもらい、搜索することにした。そして車に変更してから三日目についにラフレシアが咲いているという看板を見つけた。



ラフレシアが咲いていることを伝える看板



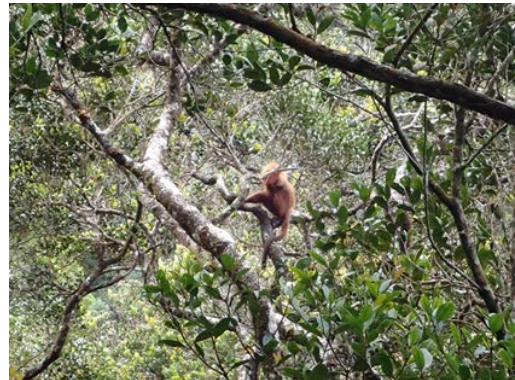
開花1日目のラフレシア

幸運なことに2つのラフレシアを見つけることができた。しかし、咲きたてだったため匂いは全くなく、山小屋の予約の関係でこの花が枯れる寸前の匂いを嗅ぐことができなかったのが残念である。ラフレシアを発見した二日後と五日後、二度のキナバル登山をした。東南アジア最高峰の山ではあるが、植物の写真を撮りながらゆっくり登ったため、特に疲

れることなく山頂まで登りきることができた。しかし、両日とも天候が優れず、頂上からのご来光を見ることができなかつたのが残念である。道中では多くの植物を見ることができた。実際に見てみたいと思っていたウツボカズラも大量に見ることができ、25種の熱帯植物を同定することができた。



大量に自生していたウツボカズラ



登山中偶然見つけたサル

## 渡航を通じて感じたこと

マレーシアは発展途上国であり、都市部の発展はかなりのものである。実際都市部に住んでいた間は何一つ不自由なく暮らすことができた。その発展は山周辺にもかなり及んでいると感じた。山周辺の土地は大部分が農地や宿になっており、もう既に森はあまり残されていないと感じた。

会話に関しては、主に英語を使っていたが、現地の人を使う英語は少し訛りがあり、聞き取れないほどではないが聞き取りづらいと感じた。

また現地の人たちは比較的日本に対して好意的な印象を持っていると感じた。

多くの人が勤務中でもずっとスマホをいじっておりスマホ依存は先進国だけの問題ではないのだと感じた。

## 今回の経験をどのように今後生かしていくか

今回、自分は生まれて初めて一人で海外に行った。約1ヶ月間一人で海外で過ごしたことで異文化の人々の考えを理解する力、そしてそれに溶け込む力が少なからずついたと言えるだろう。

この力は将来自分が調査として、マレーシア以外の国の文化に入るときにも役に立つと考えている。

また、今回の旅で、自分は何度もマレーシア人と間違えられた。しかも他の観光客にだけでなく、現地人にまでである。外国人扱いされないということは現地での様々な犯罪の被害に会うのを避けるのに役立ち、また現地人との潤滑なコミュニケーションにも役立つだろう。今後はよりマレー語をより身につけ、より現地に溶け込めるようにしていきたい。

また今回自分は初めて自生する熱帯植物を見た。これにより自分が将来研究対象とするであろうものがより明確になり、またそこに向かう気持ちがより強くなるだろう。なるだろう。

### 主な奨学金の使途

- \*渡航費
- \*宿泊費
- \*山小屋代
- \*ガイド代
- \*予防接種
- \*生活費 など